

# 熊本市 感染症発生動向調査 速報

## 現在の流行状況

### インフルエンザ流行期に入りました。

熊本市における第2週(1月11日～17日)のインフルエンザの報告数は、定点医療機関あたり1.68(定点数25、報告数42)となりました。流行開始の目安「定点あたり1」を超え、熊本市もインフルエンザの流行期となりました。例年、インフルエンザは1月から2月にかけてピークを迎えます。予防対策をしっかりと行い、感染を予防しましょう。

#### 【予防方法】

- ① 予防接種は、発症予防・重症化防止に有効とされています。希望される場合は、早めに接種しましょう。
- ② こまめに石鹸と流水でていねいに手を洗いましょう。
- ③ 十分な栄養と休養をとり、規則正しい生活を心がけましょう。

#### 【かかったかな?と思ったら】

















- ① 早めに医療機関を受診しましょう。
- ② 咳のある時は、マスクを着用しましょう。病院にかかる際は、他の患者への感染防止のため必ず着用しましょう。
- ③ 人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。
- ④ 水分を十分に補給しましょう。お茶でもジュースでも飲みたいもので結構です。

### 伝染性紅斑(りんご病)が引き続き警報レベルです！

熊本市の伝染性紅斑(りんご病)の報告数は、昨年11月より、警報レベル(開始基準値2、終息基準値1)が続いています。

伝染性紅斑は、5～9歳の子どもにおいて最も多く、次いで0～4歳の子どもに多く見られる感染症です。微熱やかぜ症状の後に発疹が出て頬が赤くなります。頬がりんごのように赤くなるので、りんご病とも呼ばれています。

咳のしぶきやくしゃみにより感染します。ていねいな手洗いやうがいをを行い、感染予防に努めましょう。

期 間		平成28年 第1週		平成28年 第2週	
		1/4～1/10		1/11～1/17	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ 		12	0.48	42	1.68
RSウイルス感染症		26	1.63	24	1.50
咽頭結膜熱(プール熱)		6	0.38	5	0.31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		25	1.56	26	1.63
感染性胃腸炎 		117	7.31	110	6.88
水痘(みずぼうそう)		3	0.19	3	0.19
手足口病		0	0.00	0	0.00
伝染性紅斑(りんご病) 		51	3.19	36	2.25
突発性発しん		12	0.75	18	1.13
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		29	1.81	10	0.63
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目) 		27	5.40	34	6.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	2	0.40
マイコプラズマ肺炎		5	1.00	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	1	0.20
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		3	0.60	5	1.00